

課題	空き家への移住を促進し、地域内における賃貸住宅と戸建住宅の間の循環居住を推進する。
目的	関係者との協働事業により「お試し移住事業」を実施し、空き家等の循環再生を図る。
取組内容	①2泊3日の「お試し移住事業」の実施(選定の結果8組参加)②事業見直しのためのシンポジウムの開催及びお試し移住事業のガイドライン(原案)の作成 など
成果	募集サイトの再編集、お試し移住事業のガイドライン(原案)作成

1 事業の取組詳細(以下、右図1のフローの事業内容に沿って記述)

(1) 計画の見直し・改善

- ・R2年度のお試し移住事業の取組みを見直し、右図1のような事業展開を考えた。
- ・募集方法も見直し2回に分けて行った結果、募集枠それぞれ4組に対して1回目約14倍、2回目約9倍の応募があった、応募は東京都と神奈川県で80パーセントを占めた。

(2) 実施体制の構築(関係者の協働体制)

- ・事業主催者(本協議会)、お試し住宅(宿泊施設)のオーナー(公社)、地元民間不動産業者に加えて先輩移住者、商店街のカフェ運営者、移住相談を手掛ける人たちなどによる協働体制を構築した。

(3) お試し移住事業の実施

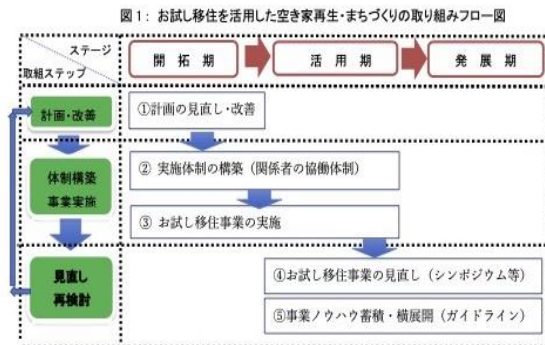
- ・11月から2月まで、チェックイン&ガイダンス、先輩移住者による相談会、物件案内・町案内&住宅相談チェックアウト&交流会の開催を2泊3日のメニューとして実施した。
- (交流会は参加者に評判が良かったが、コロナの蔓延防止措置で1月、2月開催は中止)

(4) お試し移住事業の見直し(シンポジウムの開催)

- ・空き家の循環居住再生とともに、お試し移住事業を梃子にして今後どのようにして地域の活性化に取り組むべきかを議題としてシンポジウムを開催(参加者35人)

(5) 事業なノウハウの蓄積・横展開(ガイドライン)

- ・本協議会のような民間団体向けに2カ年の実践で蓄積したノウハウをまとめた。



2 成果物

(1) 募集サイトの再編集(<https://ninomiya-workation.com/>)

(2) お試し移住事業のガイドライン(原案)作成

- ・事業目的の検討、事業計画の検討、事業協力体制の構築、予算の確保、事業実施、見直し・改善報告書の作成などの項目についてまとめた。(右図2参照)

3 評価と課題及び今後の展開

- ・参加者が具体的にリノベーションした民間賃貸住宅に移住するなどの実績も上がってきた。
- ・応募者も多く、受け入れ側の協力体制も整ってきたが、移住希望者の増加による住宅の物件不足が顕在化してきた。空き家の掘り起こしとともに、事業の新たな方向を模索する必要がある。

図2: お試し移住事業のスキーム

